

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000661		
法人名	有限会社あかつき		
事業所名	グループホームあかつき	ユニット名	さくら館
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南18073-1		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaienkensaku.go/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kihontsum&amp;lievousoCd=4572000661-00&amp;refCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaienkensaku.go/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kihontsum&amp;lievousoCd=4572000661-00&amp;refCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中で、利用者がゆったりと生き生き生活できるような接し方、言葉掛けを心掛けています。現状維持ができるよう、毎日、筋力低下防止の手足の筋力体操に取り組んでいます。また、菜園を利用して、作る楽しみ、収穫の楽しみ、食べる楽しみを味わっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が、思い思いの意見を自由に語り、会話がはずみ、笑いが絶えない雰囲気をもつ明るいホームである。職員は、男女をバランス良く配置し、生活のパートナー(自分の父母と同じように、時には息子、娘、孫となり)として、利用者が心から安心・安全に過ごせるよう支援に取り組んでいる。管理者と職員は常に向上心を持ち、利用者のケアの質を上げるため、会議前には意見聴取のためのアンケートを実施し、意見交換を十分にを行い、物事を決定している。無資格者への資格取得を支援する勉強会を開催し、成果を上げ、利用者のケアの改善を図っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関、フロアなどにも掲示しており、職員や利用者、家族などにわかるようにしている。	10年を経過した現在、開設当初に作成した理念を見直し、地域に密着し、家庭的で安心・安全な生活が提供できるように、職員一人ひとりが意見を出し合い、理念を中心とした業務につながるよう日々努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の長寿会の行事、敬老会など、積極的に交流を図っている。	利用者各人が自治会に加入している。地域の行事等(敬老会・作業)に参加したり、日常の散歩時の挨拶、野菜などをもらったりと、自然な交流をしている。時には、ホームのイベントに招待するなど、住民との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方との接し方など、業務時間以外でも相談を受け付けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回必ず開催しており、会議で出た意見等を日々の支援に生かしている。	それぞれの立場から、ホームの現状報告、地域のお知らせ等を話し合っている。このことから、ホームの防災訓練に地元の消防団が参加したり、看取りについて検討するきっかけができて、意見をサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回必ず参加して頂き、現状報告を行っている。	日頃から、提出書類やホームの問題などを直接窓口に出向き相談しており、関係機関の紹介等を通じて、連携が良くなり、問題解決が容易になった。継続して、担当者との協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、身体拘束について研修を受け、社内研修を行い、職員にもマニュアルを作成し、周知している。	身体拘束の外部研修を取り入れて、職員に研修を行っている。また、独自のマニュアルを作成し、拘束の具体的な例を示すことにより、その弊害の理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について講師を招き、社内で研修を行い、虐待について学んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらに関する資料を用いるなどして、社内研修ができるよう取り組んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の協力の大切さも含め、利用者、家族に不安、疑問点を聞き、見学や話し合いの場を設けて、理解、納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に記載できるメモ帳を置き、意見があった場合、運営に反映させている。		直接要望を表明することを遠慮している場合が多いが、利用者は日常生活の言葉や行動から、家族は来訪時に、希望や要望を聞いている。帰宅願望やショッピング等を実現できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行っている。意見・提案が出た場合、早急に対応できるように心掛けている。		定期的に職員会議を行い、ホームのスキルを高めるため、福利厚生や資格取得について、業務改善の意見が自由に出されている。それらの提案を運営に生かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護の現場に常に就いていないため、表面に見えていないこともあると思う。職員一人ひとりに対し、できる限りのことをしていきたいと思っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ法人と共有できる研修の場を設けている。また、職員自らが、自分たちに必要なことを見極め、自主的に参加して欲しいと呼びかけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町外グループホームの研修や勉強会、納涼祭、敬老会等に参加し、互いに勉強、交流の場を作っている。また、地域別の活動等に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安をなことや要望などをくみとる努力をし、要望を言いやすいような雰囲気づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が要望や思いを伝えやすい雰囲気、傾聴を心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のADL状態、生活歴を把握し、アセスメントを実施し、サービスを導入している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敷地内に菜園があり、野菜等を栽培している。わからないことを教えて頂いたりしながら、職員との関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診を一緒に行ってもらったり、盆、正月の外泊のお願いをしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間を決めず受け入れている。地区の敬老会への参加を希望される方もいる。	利用者のなじみの人や場所の聞き取りをしており、関係が途切れないように、関係者の来訪時は自由にホールを開放している。また、墓参り、ショッピング、帰宅、散髪等の支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の利用者の様子を見て座席を替え、話がしやすいよう気を付けている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居期間中に築いた信頼関係を大事にし、利用終了後も相談、交流を図っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴を調査し、思いや意向の把握に努めている。		日々の暮らしを通して、利用者の希望や意向を把握することを最も大切にしている。把握した情報は、全職員が共有するようにし、家族からは、利用者の生活歴を聞き、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から馴染みの暮らし方、生活環境を聞き取り、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態、病歴などを理解し、ADLの維持、向上に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が発生した際には、職員間でカンファレンスを実施し、介護計画に反映させている。		日々の介護記録(身体状況、介護日誌、バイタルチェック)、ケース会議、担当者会議、家族の意向を取り入れて、ケアプランを作成している。毎月モニタリングを行い、随時ケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に実践したことを記入し、気づき等を月1回開催しているケース会議などで取り上げ、介護計画に反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、受診の代行(墓参り、買い物)や書類作成代行などの対応を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元にあるスーパー、商店街で買い物をしたり、以前の暮らしが続けられるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望している病院で、定期受診などを行っている。	利用者の多くは、地域にある総合病院をかかりつけ医としているが、町外の病院を希望する利用者もいる。定期受診は、原則家族が連れて行くが、職員が支援することも多い。受診の際は、情報を提供するなどの支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働により、利用者の早期の異常発見、観察の方法、適切な処置を学んでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報を提供し、スムーズな治療が受けられるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の検討が必要な利用者様に対しては事前に家族と話し合い、方向性を明確にしている。	入居時に、利用者、家族から看取りの要望はあるが、現状は、最終段階でホームでできる範囲を超えた場合は医療機関へ入院となっている。要望に対し、看取りの指針や同意書等の準備を検討中である。	看取りの指針を明文化し、職員の理解と不安を取り除く研修を行いながら、医療機関や関係機関の体制を整え、ホーム内のマニュアル作成等の支援体制を確認することを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成して、掲示、配布をし、また、心肺蘇生法の実技研修にも積極的に参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、自主訓練を行い、避難方法を身につけるように努めている。近隣住民にも避難訓練に参加していただいている。	年3回、自主火災訓練を行っており、消防署や住民の参加で夜間にも避難訓練を行っている。近隣の特定の住民には、火災が発生した際に支援を依頼している。	日頃から近隣住民をホームに招き、安全確認の手順を具体的にマニュアル化すること(住民の役割分担、間取りの確認、住民の連絡網の作成)を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格にあった言葉遣い、時には方言を交え、人生の大先輩に失礼のないよう心掛けている。		接遇研修では、プライドを傷つけない言葉遣いや接し方を行っている。利用者になじみのある丁寧語や方言を使い、利用者と職員のコミュニケーションを図っている。人格の尊重とプライバシーの確保については、繰り返し学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴することで、言いやすい雰囲気を作り、思いを聴いたり、感じ取れるように努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けをし、拒否があれば無理強いせず、本人の希望を聞き、自己決定を支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、散髪、カラーを実施している。気候に合った服を準備している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に合わせ食事形態を替えたり、食器を準備し、食べやすく工夫している。スタッフと一緒に食事をしている。		委託業者の食材と献立(管理栄養士作)で調理するが、行事食や誕生会、希望献立を取り入れ、柔軟に対応している。利用者の口腔機能や力量に合わせた準備をしている。ホームの栽培野菜で利用者と漬物を作ったり、食前には口腔体操をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎回チェックし、不足している方には捕食(おやつ等)を提供している。暑い時期には、特に水分補給に気を配っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、義歯洗浄、舌苔ブラッシングなど、一人ひとりの状態に応じ、見守りや介助で毎食後必ず行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがあればすぐ対応し、訴えがない方には定時の誘導、表情を見てトイレへの誘導を行っている。	利用者の排せつパターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行い、自立支援を行っている。夜間はトイレ誘導とポータブルで対応し、現在では、全員オムツから、リハビリパンツと布パンツに移行している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、野菜類の多い食事、運動などに気を付けている。それでも排便がない場合は、腹部マッサージを行ったりしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後からとなっているが、一人ずつゆっくりと入浴して頂いている。入浴剤を使用するなどの工夫をしている。	基本的には週3回の入浴支援をしているが、利用者の希望や健康状態に合わせた柔軟な対応を行っている。熱発、血圧の異常がある場合、清拭や部分浴を行い、また、ゆず風呂や希望があれば、入浴剤での支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさ・温度を一人ひとりに合わせ調整したり、寝具を清潔に保つように心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ノートを作り、管理し、一回ごとに手渡しをし、確実な内服の支援をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	猫の世話、草取り、洗濯物たたみ、針仕事、漬物漬け等、出来ることを見つけ手伝ってもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、祭り見学、施設周りの散歩、地区の敬老会への参加や買い物への同行等を行っている。	日常的には、ホームの周囲の田畑や寺の境内を散策したり、四季折々には、桜やコスモス、しょうぶ観賞等のドライブを兼ねて出掛けている。また、なじみの店での買い物や散髪には、家族や職員が同行している。		

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自身で支払いされる方もいらっしゃる。スタッフが必要な分だけ本人に渡すようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話をかけたり、定期的に手紙などを出している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔を保っている。季節に合った飾りをしたり、草花を活けたりして、快適な空間作りを工夫している。	毎朝、清掃では換気、温・湿度管理と室内・外の衛生管理を行い、利用者の健康管理に配慮している。玄関やリビング等には、季節の草花を絶やさないようにしており、利用者が花に関心を持つことで話題にしたり、居心地良く暮らせるように工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置き、人数が座れる場所を提供している。また、誰もが自由に過ごせる和室なども用意し、思い思いに過ごせる居場所作りを工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から持って来られた物を中心に、安全に配慮した空間にしている。	利用者の使い慣れた布団や神棚、チェスト、机、いす、家族の写真、自分が制作した作品等を、各自の好みに合わせ配置し、居心地良く暮らせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、共用部分に手摺りを設置し、また、車椅子での移動がスムーズに出来るよう、家具類の配置を考えている。			